

令和2年度 第1回 四万十町地域公共交通会議 議事録

- 開催日時：令和2年6月26日（金） 13時～14時30分
 - 会場：四万十町役場本庁東庁舎 地域交流センター 多目的大ホール
 - 出席者：森武士（四万十町 副町長）、岡田哲也（高知県中山間振興・交通部交通運輸政策課 課長）代理出席：杉浦崇文、出海博史（四国運輸局高知運輸支局 総務・企画観光部門 首席運輸企画専門官）代理出席：柴山和広、山本圭（国土交通省四国運輸局高知運輸支局 輸送・監査部門 首席運輸企画専門官）、吉岡真佐人（株式会社四万十交通 代表取締役）、三浦ひろみ（有限会社丸三ハイヤー 専務取締役）、谷崎直子（十和地区代表）、津野修三（大正地区代表）
 - 欠席委員：芝和寿（有限会社十和ハイヤー 代表）
 - オブザーバー：細谷公平（国土交通省四国運輸局交通政策部 交通企画課）
 - 事務局等：山本康雄、福留宏知・片岡真由子（四万十町役場 企画課）
土居貴之、藤田順也（えこ・まち研究室）
-
-

1. 開会

- (1) 事務局 開会の挨拶
- (2) 会長挨拶
- (3) 辞令交付 津野 修三 委員
- (4) 委員の自己紹介
- (5) 資料の確認
- (6) 会議の成立について

委員9名に対して出席者8名で過半数を超えていることから本会議が有効である。

2. 報告事項

(1) コミュニティバスの利用状況・・・資料①

（事務局）

運行開始した平成23年から窪川・大正・十和地域のコミュニティバスの利用者数を集計したもので、26年までの一部データが取れてないものもありますが、平成27年頃から一定の利用者が安定して推移していることがこのグラフからわかります。

令和元年10月末から令和2年5月末までのデータで窪川地域については、道徳・折合・東北ノ川・飯ノ川線については利用者数が1000人を超えている。令和2年4月から5月までは新型コロナウイルスの影響が若干あるようにもみえるが、現状維持ができています。月別利用者数などではフィーダー補助路線対象の2.0人を超えている。

便別利用者数では、1便に外出、2便・3便で自宅に帰ることが多いことがわかる。5便目に関して利用事態は少ないが、朝市ではない3便目、4便目で出かけて5便目を利用して

帰るという安心感にもつながっているため、5便目の存在が非常に大きいものとする。

大正地区については相去・葛籠川・里川・芳川の4路線があり、相去線の利用が最も多い事がわかる。3月から5月までは新型コロナウイルスの影響により利用者が若干少なめにはなっているが、大きく減少してはいないことがわかる。葛籠川線については1便目より2便目方で出かける利用者数が多いことがわかる。

十和地区については、戸口戸川線・地吉線・北ノ川広井線・野々川線・古城線・大道線の6つの路線が走り、なかでも地吉線914人、古城線879人と利用者が多いことがわかる。また、この地域についても新型コロナの影響による利用者の減少はあまりみられない。全路線で1日あたりの利用者数2.0人を超えているので、十和地域でも地域の足としてコミュニティバスが根付いているということがわかる。

十和では1日6便走っているところもあるが、多くは2便目から出かけている。十和では十川にあるスーパー彦市さんで買物される方が多いので、次の便で比較的多くの方が帰るのかもしれない。大正・十和両方の地域でいえることは、バスを必要としている高齢者の住んでいる地域がバス停までの距離が長かったり、道路の幅員が狭かったりするため、今後、ダイヤの調整だけでなく、幅員の狭い道路も走れる車両の購入などの検討など、見直しも必要と思われる。今後の協議事項でバス路線について協議してもらいたい。

最後の十和地域の45～46Pの上り線、向畑はデマンド運行として一番新しくこの地区に入り始めている。他の地域では、地区に要望されて、走り始めたものの、案外乗っていないということがよくある。ここに関しては人口が非常に少ない地区なのでデマンド運行をしているが、一定の利用者が継続して乗車している。

(2) コミュニティバス利用者の意向・・・資料②

(事務局)

4月に窪川地域で実施予定であった利用者懇談会を新型コロナウイルスの影響で中止し、四万十交通・丸三ハイヤーの運転がコミュニティバスの利用者に返信用封筒入りのアンケートを配布した。車の中で記載するのは揺れたりするので、家に帰ってゆっくり書いてもらい、郵送してもらえようようにしていたため、郵送での回収率が車内アンケート箱の回収より高く、県内でもバスに対する意識の高さを実感した。

性別に関しては女性の回答が87%、男性が18%で女性の回答が多く、年齢は80代が56%と半数以上を占めている。家族構成について独居が半数を占めていて、家庭に足がないということ以外にも、地域が見守らなければならない高齢者が多いということがわかる。自分の移動手段についても59%の方がなく、車やバイクの所有者も同居の家族の移動手段がある方からも、「あと何年乗れるかわからないから不安」という声もあった。

コミュニティバスの利用頻度は7割の方が毎週利用し、住民の足としてコミュニティバスが定着しているということがわかる。他の公共交通機関へ乗り換えについてはくぼかわ病院の通院バスへ乗り換える方がもっとも多く、回答の中にはバスを運行していない病院名が多くあるが、バスでよく行く病院と読み替えられた方が多かったと思われるので、次回アンケート作成時には質問の仕方を見直したいと思う。

よく行く目的地3か所の質問は窪川地域ではハマヤ、みやた、病院という回答が多かった。みやたで止まってもらいたいという意見が以前から多いので、今後どのような対応ができるか具体的に協議をしていきたいと思う。

大正地域も窪川地域と同じく、買物と病院が多く、ハマヤ、みやたの他、大正の町中にある大正フードセンターに行くという方が多数いる。十和地域については窪川地域からは距離があるため、ハマヤやみやたで買物は少なく、地元の彦市を利用している方が多い。北ノ川広井線の車内で利用者の声を聞く機会があり、同級生とバスで待ち合わせをしてモーニ

ングに行くという利用の仕方をしているという話も聞くことができた。

コミュニティバスの満足度では運行経路に関しては概ね満足されている方が多い。運行ダイヤ・乗り継ぎの満足度は半数以上の方が満足との回答。各個人の買物時間や生活スタイルにあっていくということが、この質問で満足度に反映されているので、全ての人が満足するのは難しいことだとは思いますが、より多くの人に満足いただけるように、集計結果をもとにダイヤや乗り継ぎなどを接続できるよう努めていきたいと思っている。

町からの情報発信の満足度については町のHPに時刻表を掲載している。以前はPDFで添付していたが、パソコンで見るとスマホでHPを見る方が多いので、PDFビューアーなどで開かなくても、時刻表を画像にしてそのままブラウザ上で時刻表を見られるリンクにとぶように変更した。ご意見のようにあまり発信されていないということなので、今後利用者の手に届くような発信方法を早急に考え努めていかなければならない。

「みやたの方に行ってもらえれば大変ありがたい」「宇和島方面への汽車に合わせてダイヤを変えてほしい」などの意見もあり、令和3年度のうちに解決を目指す。

(会長)

アンケートに際して四万十交通・丸三ハイヤーの乗務員の方のご協力をいただいたということで、改めてこの場をお借りしてお礼を申し上げます。ありがとうございました。

【質疑応答及び意見の提示】

(津野委員)

返信の仕方としてお年寄りの方で書き方がわからないので、やってないというのが多いのではないかと？家族構成について無回答が多いのは、家庭のことを外に漏らしたくないという意識が働いたのではないかと？

(事務局)

同じアンケートを他の自治体でも同じ手法でやっている。回収率をみると四万十町は極めて回収率が高い。他のところでは多くても10通程度、少ないところでは4通。少ないところというのは、このままでいいという意見が多かったと考えられる。四万十町では現状維持を求める声が多く、「運行の形は今のままでいい」「どうかなくさないでほしい」という思いを伝えたかったとみている。家族構成については、独居か夫婦世帯かそれ以外の質問しかない。家族構成を具体的に聞いてしまうと、色々なパターンがあるので、事務局として一番把握したかったのが「独居で移動手段がある」、「高齢の夫婦世帯だけ」なので、ざっくりと質問しているので回答者が選択肢に迷ったと考えている。

(谷崎委員)

十和地域です。この資料をまとめられるのも大変だったろうと思って、見せてもらいました。大道地域の方の声を聞きますが、デマンド運行など「こんな嬉しいことはない」とおっしゃっていました。地域の人達の足になっているということがよくわかります。

3. 協議事項

(1) 四万十町コミュニティバスの次年度運行概要について・・・資料③

(事務局)

現状からの検証ということで次年度令和2年度10月から向こう1年間、運行経路やダイヤ、運賃については基本変更を行わないものとする。利用者の意向で指摘されている事項や公共交通空白地区の解消、四万十町地域公共交通網形成計画に記載されている項目については順次改善していく。

今回のアンケート調査において、引き続き改善が必要と思われるものを抽出。運行の内容は変えず、平行して取り組んでいくものをまとめている。今回のアンケート調査で最も多かった意見は今現在、3地域で1路線週に一日の運行になっている。運行している日は買物や病院で時間がかかっても、長距離外出しても何とか帰ってこられるというダイヤにし、1日の運行を何便か間隔をあけながら設定している。それに対して、「運行回数はこんなにいらないので、運行日数を増やしてほしい」との意見がある。これまでなら、利用者懇談会でそういった意見に対しては「どのような移動にも耐えられるよう設定をしている」と説明をし、納得してもらっていたが、今回はアンケート調査なので一方通行に意見を聞くだけになった。もし複数の日に変えてしまうと、同じ時間に外出し、帰宅するとなると便を減らしても同じ時間帯に2倍になるということを知ってもらわなければならないということを地域の人に説明していく必要があると考える。

わかりやすい情報提供として、3地域の時刻表冊子を作成して配布する準備をしている。こういったことを必要な人に届ける必要があると考えている。

みやたでの乗降可能にしてほしいという要望が窪川地域でコミュニティバスの運行を始めた当初からあり、何年か前にも四万十交通と一緒に現地調査をした。裏道から入れないかなど検討したが、交通量の多さ、駐車場の形状から総合的に判断して非常に危険である。利用者懇談会では毎回説明をしているが、今後どうやって周知をしていくか考える。

安全な運行に対する要望として、運行事業者に徹底を再度お願いしなければいけないという要望がでている。

十和地域から宇和島方面行きの列車への接続を要望する声について、何年か前に地元と協議して窪川方面につなぐ決定をした経緯がある。予土線が以前は一日7本走っていたのが、現在5本に減り、接続が難しくなっている状況で、当時は十川の駅で上り便下り便の行き違いをする時間帯があり、両方に合わせやすかったが、今は難しくなった。移動のニーズを調査した時に圧倒的に窪川方面が多かったのも、今後地区に入ってその時の状況から変わっているかどうか把握していく。

十和地域の十川橋のバス停について、ベンチの設置を要望する声があった。草が生え、ベンチが折れて曲がっている状態で、利用ができないとの指摘が事務局に届いている。現地調査をして、取り組みを進めていき草を刈り、古いベンチを速やかに撤去して新しいベンチを設置しようとしている。

【質疑応答及び意見の提示】

(谷崎委員)

バスに乗っている人などところに行き、地域の声や運転手さんにもよくお話を聞いていますが、十川橋ではあまり人は待っていないと運転手さんから聞きました。橋の下より、一番乗るのは彦市さんの前なので、待合いを検討するなら一番乗る場所で検討してもらいたい。

(事務局)

調査に行った時、買物袋を下げて十川橋で待っている方を見た。利用状況のデータを確認しても、十川橋で待っている人は多い。古城・地吉方面の方が十川橋で待っている人が多いのではないかと思う。アンケートでも十川橋のベンチを直してほしいという意見があった。

(谷崎委員)

確かに十川橋のベンチは傷んでいると思う。私の地域の人にはベンチが欲しいと言っているけど、作ってもらえないので、丸太を5つくらい並べて自分で作っている。地域の人にも知恵を出し合って、待合いなどを作ったらいいのではないかと思う。全部の地域に待合いを作るのは難しいと思う。

(四万十交通)

バス停の待合いについて草が生えたら刈るなどチェックをして、整備についても事業所も努めていく。

(会長)

協議事項についてはこの会議の中で採決をしていきたい。事務局の提案資料③について次年度については運行経路・ダイヤ・運賃の変更は行わないという提案について、原案について承認される方の挙手を求めたい。

(全員挙手) 承認されました。

(2) 令和3年度 四万十町生活交通確保維持改善計画について・・・資料④

(事務局)

毎年この時期に協議をお願いする計画。国に窪川地域のコミュニティバスについてより良くしていく内容をまとめて提出。まとめた結果を国に承認いただいて令和2年10月から令和3年度9月までの1年間の間に、一定の基準を満たしていれば国から支援をもらう。この計画については記載内容の様式が定められている。地域公共交通確保維持事業に係る目的と必要性を記載する項目は、窪川地域の公共交通空白地区を解消する、それによって移動手段をもたない高齢者であっても、自身の意思で買物や必要な移動ができるようになるということに記載。

昨年度、四万十町では地域公共交通網形成計画を策定し、今後は体系的に必要な取り組みを行っていくということに記載。地域公共交通確保維持事業の定量的な目標、効果として網計画から窪川地域のコミュニティバスの維持に関連する項目を抜き出している。

(目標) ①として公共交通空白地区に暮らす移動制約者を出現させない

② 2町内の鉄道・路線バス・コミュニティバスの年間利用者数が前年実績を維持していく

③ 路線バス(定期外)とコミュニティバスの利用者数を増やす。ICカードですかを利用する人を増やす。

といった目標を設定。こういった目標を達成していった先に、事業の効果として網計画で設定した目指す将来像を実現するものとする。①は現行の路線バス運行時間と沿線の移動ニーズとの整合も含め、町内の公共交通空白地区を解消する。②は鉄道とバス、バスとバス、通院バスなど、その他の移動手段等窪川駅や土佐大正駅においてダイヤ連携させる。四万十町、鉄道事業者、バス事業者と連携させる。③は路線バス停掲示物について、土地勘のない人でもバスを利用できるよう路線図と時刻表、運行事業者の連絡先を載せるなどわかりやすい情報掲示をすすめる。①～③について、四万十町とバス事業者とすすめる。

④ 町内の公共交通網が網羅された時刻表冊子を作成する

⑤ 地区別意見交換会や公共交通利用者懇談会など開催し公共交通に対する地区単位や利用者単位の要望を聞き、実際の運行に反映させる。四万十町が中心になるが運行に反映するところは交通事業者にも一緒に取り組んでもらいたい。

⑥ 各地区における住民の集まりや、学校、集客イベント会場に実際使っているバスを持ち込み、利用方法やバス利用時のマナー、お得で便利なバス利用方法などバス乗り方教室を開催する。こういった取り組みを通じて先ほどの事業の効果につなげる。

④～⑥についても四万十町と交通事業者とすすめる。計画の対象となる運行系統の概要及び運行予定者については昨年と変わっていない。

窪川地域のコミュニティバスを運行する事業者について、地域公共交通確保維持事業に要する費用の負担者として四万十町から運行事業者への補助金は、運行収入および国庫補助金から運行経費を差し引いた差額分を負担するとなっている。補助金の交付を受けようとする補助対象事業者は株式会社四万十交通。

協議会の開催状況は直近で動きがあったことは、昨年度5月に大正・十和地区のコミュニティバス運行概要を変更することを地域公共交通会議で承認されている。6月24日、現年度窪川地区のコミュニティバスの運行概要について確保維持改善計画について合意。利用者の意見の反映状況は毎年行っている直前、直近の意見交換、利用者懇談会は実施できていない。変わりとして実施したアンケート調査の分析から今回は運行概要の変更はしない。

国に申請する路線一覧として表1をまとめている。本来、5番目折合線（天ノ川西経由）は実際の利用者への情報として4番と一緒に折合線となる。

昨年度、一部の便の走り方を変え、こういった記載になっている。8番9番の神ノ川線は水源地までは路線定期運行として走り、その先奥神ノ川までを要望があった時だけに運行するようにした。そのため、重複した記載になっている。

運行計画日数については今年の10月から向こう1年間まで該当する曜日を記載している。

表5については地域の概要ということでまとめている。四万十町の人口については直近の人口（5年前）。昨年度、四万十町では地域公共交通網形成計画を策定したことから、算定式の上限額の上乗せを補助交付予定。昨年度の計算方法で記載すると上限額4,998千円となるが、まだ国から計算式が発表されておらず、※は参考として記載。路線一覧の1は窪川地域の運行する路線と運行ダイヤをそれぞれ記載。一式を四万十町生活交通確保維持改善計画として提出する。

（会長）

令和3年度四万十町生活交通確保維持改善計画について、原案を承認する方は挙手をお願いします。

（全員挙手）承認されました。

（3）バス路線再編方針について・・・資料⑤

（事務局）

昨年度、とりまとめた地域公共交通網形成計画に関連。コミュニティバスの運行、四万十交通、丸三ハイヤーと連携して路線再編などについて取り組んでいるが、未だに公共交通の空白地区が残り、そういったところを今後解消していく。既存の路線バスが地域住民と移動の時間、便数が合わず、不便と意見が昨年度の調査で判明。具体的に今後改善していくため、まず、ここに記載している地区について四万十交通と会議を行い、共に現地調査を行い、まとめたものが事務局案。

対象となる地区が窪川地域は黒石の南部地区、志和峰・家地川、大正地域は下道・打井川地区、十和地域は小野、八木（はちぎ）地区。赤い線が既存の路線バス、緑色の線はコミュニティバスが走っている箇所。

黒石南部・志和峰地区について、地図上で見るとバスから近く見えるが、買物袋を提げて実際歩いてみると相当距離がある。2年ほど前から「そろそろ何とかしてほしい」との声がこの地区からあがっている。志和峰地区は少ないが、黒石の南部地区についてはかなり多くの家がある。

家地川地区について、国道381号線、四万十交通の路線バスがある。朝の7時に窪川方面に行く便があるが、帰りの便がかなり遅い時間の便しかなく、買物に行っても長時間待たなくてはならない。青色で示された路線バスから離れたところに住んでいる住民からの要望が意見交換であがっている。

下道地区について、大正から下津井の方に四万十交通の便がある。かなり前のスクールバスの名残の便が夕方に1本だけ下道の方に川を渡って走っている。1日の運行回数が0.5回の便。集落から約1.8キロの集落の下の入り口で運行は止まっている状況。下道地区は毎年

意見交換をするが、改善を求める声が毎回あがっている。

打井川地区について、路線バスは全て大正駅に向かっている。朝の早い時間の後の便は16時頃で、以前のスクールバスを兼ねた運行ダイヤとなっている。病院や買物に出かけても朝行ったら夕方まで待たなければならない状況で、地域の方から毎日だけでなくもいいので、今の走り方を利用しやすいように改善してほしいとの声がある。

十和地域の小野地区について、四万十川の橋を渡った対岸が小野地区。非常に幅広い地区で青い色をつけたところに多くの家がある。最上流域、最下流域の部分、中央部分の高低差がかなりある、高い場所に交通手段のない方が多く暮らしている。意見交換で多くの要望が出されており、「人の集まっているのは橋の近くで、冬になると200mほどある橋が凍って危ない」との意見もある。

八木地区について、十和地域の広井線・大井川線の間にある集落。高齢化が進み、今現在、八木地区から大井川の駄馬・中島の辺りまでトンネルを歩いて越え、週に1度十川で買物に行く方が2名いる現状。この八木地区についても早急に対応する必要がある。

8ページについて現在、事務局で考案中。これを基に今後、四万十交通と地区と一緒に作り上げていく。

9ページについて（路線再編案）、くぼかわ病院を県道から南に移動した部分で見付についても要望が出ている区間がある。

10 ページの家地川については家地川経由の系統はとりやめ、国道経由にし、便数は確保する。一方で要望通りの経路にしたものに赤い色を付けている。この通りだとあちこち行くことになるが、地域でこれが受け入れられるかどうかを含め、地区と協議したい。

11 ページ打井川について、奥打井川から出てくる路線については大正方面への移動ではなく窪川と直接つないでほしいとの要望が出ている。現在、大正から打井川方面へ定期的に移動する方を1名確認しているので、途中の北ノ川で大正行きにつなぐようにする。

12 ページ下道について、下道の上の集落まで走る経路を考えている。今の車両の大きさでは下道の上で車両を回すことができない物理的な問題があり、人口や利用も少ないという前提で週に1回のコミュニティバスとして、受け入れてもらう方向で検討中。昨年の意見交換でもこの案を提案している。

13 ページの小野について、対岸に鮮魚店と酒屋を中心とする商店がある。この2件が小野地区の住民と密接につながりがあるので、この関係を今後も維持できるようなダイヤ・経路を考えている。既存の診療所のバスが週に2往復、昭和上の診療所と小野地区を鍋谷、十川周りで結んでいるので、基本的にその路線を上流域、高台域の方にも使ってもらおうようにする。

14 ページの八木線（はちぎ）について、八木を出発して井崎谷を下り、過去には十和地域のコミュニティバスとして走っていた保喜地区を経由して、鍋谷から十川、昭和上までいくという経路を検討中。今現在は事務局案で、これを基に地区へ入り、意見交換を行い、最終案を考える。

（会長）

そろそろ何とかして欲しいというところが7地区あります。合わせて、既存の路線バスをコミュニティ化するということもありますし、新しいコミュニティバスの路線が策定されるところで、窪川・大正・十和それぞれの地域で非常に切実な要望が出されているかと思えます。もう少し、聞いておきたいところや確認したいところがあればご発言お願いします。

【質疑応答及び意見の提示】

（谷崎委員）

本当にありがたいと思う。大正地区の下道は、地域の方々が本当に一生懸命願っていた。学校がなくなってもスクールバスの名残があり、夕方1便だけ16時半ぐらいに走っているだけなので、地域の方に「帰りどうしているのか？」と聞いたことがある。「それが困るがです」とよく地域の方が言っていた。下道地区の方は上の方に家が多いので、一周してもらえれば小野地区の方も含め、本当に喜ばれると思います。

八木地区については、八木地区の方は診療所まで行くのに10キロぐらいあります。大井川まで歩いて、苦労しながら診療所に通っている方が八木の奥のほうにいますので、この方達のために本当にありがたい、助かる路線になるのではなかろうかと思います。よろしく願います。

(津野委員)

八木地区について、八木から大井川へ出るにはトンネルが狭すぎて、通れませんか？ぐるりと回ったら通れそうですが、都合が悪いですか？

(事務局)

トンネルは通れますが、八木地区の方のためだけでは利用が少なく、せつかく走らせるのであれば、途中経路を工夫して他の地区の方も利用できるようにしたいと考えている。もし、八木のためだけでよければ、地元のタクシーを使いやすくする方法もある。以前走っていたが利用が少なく路線がなくなってしまった保喜や井崎谷の方も八木の方と一緒に利用できないかと考えており、買物の方は十川、診療所を利用する方は昭和まで行けるといいう一筆書きの路線を考えている。これはまだ案であり、今後の地区との意見交換で路線が変更していく可能性はある。

(会長)

協議事項3番目のバス路線の再編方針について事務局提案通り賛成の方は挙手をお願いします。

(全員挙手) 承認されました。

4. その他

(1) コミュニティバス時刻表冊子について・・・資料⑥

(事務局)

資料6のコミュニティバスの冊子について、現在は窪川地域のみ。平成30年に完成し、住民に配布済。大正・十和の冊子はなく、今後取りまとめていく。四万十町では、窪川地域と大正・十和地域の2つの時刻表を作成予定。大正・十和地域の時刻表は運行経路やダイヤの変更があることが予想されていたため、印刷を見送っていた。運行概要に変更がなく、四万十交通、JR四国の路線やダイヤの変更がないことを確認し、製本作業にとりかかりたい。

(四国運輸局を離任する柴山氏より挨拶)

地形的に生活の足を確保するには非常に厳しい地域だと思いますが、今日のアンケートの結果を拝見したところ、住民の満足度が高いことがうかがえ、これだけの満足度をアンケートを取ったときに打ち出せるということはあまりないので、本当に頑張っておられると思います。ますます日本全国厳しくなると予想されますが、生活の足というのは生活の基盤です。我々も頑張って取り組みを進めてまいりたいと思います。

5. 閉会 14:30